



## 淫らな催眠療法。

いいですか、力を抜いて下さい。今からあなたは、心身ともに家庭や社会のしがらみから解き放たれますよ。もう我慢しなくていい

のです。自分の欲望に忠実になつて下さい」

こういう暗示の台詞が毎回繰り返されている。たいていこれだけで、セックスに対する本音を吐露し、ヤツてくさいとせがんでくる場合が多い。

不感症の治療に、心理療法や催眠療法を用いた場合はよく遭遇するケースだった。

もっともボクがする催眠療法は、積極的にセクシヤルな暗示へと誘導するが。

こういう指示暗示すら必要なく、二人きりになつただけで欲情して求めてくる女も少なくない。

この仕事はモグリの催眠療法のようなものだ。だが自分から望んで始めたことではなかった。

確かに大学も心理学科だし、カウンセリングの知識もあるにはある。だが本格的な臨床は医学部の精神科の仕事だったし、精神療法

も同じようなものだ。だからとりたてて専門家と言うわけではない。

しかし催眠に関しては、専門の教育を受けたからといってスペシャリストになれるものでない。どちらかというと、知識ではなく経

験というか勘とセンスが作用する。  
専門家よりも奇術師や催眠を利用するマジシャンの方がうまいと言われるところだ。これに関しては自分でもかなりのものだと思う。声の調子と音質が催眠に適していたようだ。



アルバイトで、進学塾の父兄のカウンセラーのようなことをした時、三十歳の奥さんから窃盗癖と不眠の相談を持ちかけられた。

進学とはまったく関係がないが、個人的なことで話しを聞いた。

カウンセリングを続けていると、それがセックスに対する欲求不満からきていることがわかった。

簡単な催眠暗示で解決してしまった。相手が催眠ができるならかけてほしいといってきたからだ。

だがこの時、この奥さんからセックスをしてくれとせがまれた。つい手を出してしまっ

て、それが思いのほか、いや、ものすごく良かったのだ。

普段の抑制を失った女がこれほど淫乱になるものかと驚いた。

癖になってしまふものだった。

それは相手も同じで、これがあつてから奥さんの悩みは見事に解消した。それからというもの、個人でそれらの相談に乗るようにな

った。変に噂が広まり時々相談がある。

自分も女が大好きだったから、これにハマって抜けられなくなってしまうのだ。

依頼のほとんどが人妻だった。とくに裕福な家庭の奥さんが多い。催眠カウンセリングを行うのも、普通のホテルや奥さんたちの自宅で行うことが多かった。

今回のカウンセリングの相手は、三十四歳の人妻だった。

子供が二人いる。男の子と女の子の二人だが、長男の受験にカリカリしていた。

話を聞くと夫婦生活に不満があるようだった。

そしてこの奥さん、変な妄想があつて自分がこの長男と将来近親相姦してしまうのでは

ないかと恐れていることがわかってきた。

どうやらまだ乳児のころに、オツパイを上げた時になんとか乳首がすごく感じてしまったようで、我慢できなくお乳を上げならオナニーした経験がある。

だがこれは他の奥さんたちも、子育ての時に時々あるそうで、特別におかしなことではないようだ。

ただこの奥さんは、普段の欲求不満と受験や進学的不安から変な方向へと妄想を発展させてしまっている。

そしてこの欲求不満を解消する方法に、擬似近親相姦という暗示を利用することにした。

正式な治療法としては、けっしてやっては行けない治療法だ。その昔、精神分析の創始者であるフロイトが、実際に経験している。

精神分析の世界では、クライアントと個人的な肉体関係を結んではならないと戒められている。

だが、実際の治療者たちも、この戒めを守れないものも多いようだ。

自分の場合は積極的に 実益もかねて 治療方法としてにすぎない。

「いいですか、わたしを　君が成長した姿だと思い描いて下さい。二人は今、禁断の関係になろうとしています」

そして、「ママ。僕はママのオツパイが好きなんだ。もっといっぱい吸いたいんだ」と言う。

こういう場合、催眠暗示下で簡単なストーリーを作つてやる。

この場合は甘えてくる息子に、段々と母親から女へと変貌してくるといふストーリーだ。



「あああ、　君。ママのオツパイがそんなに欲しいの…」

ブラウスの胸をはだけてブラをずらし、乳房をあらわにしていく。恍惚とした顔を見ただけで、すでにアソコはズブズブに濡れているのが一目でわかる。

この手の催眠は劇的な効果が現れる。効果がない女性は、セクシャルな問題で悩んでいるのではない。その場合は、普通の治療的なアプローチとなる。

乳首を吸った。

奥さんが乳児にするように自分から乳房を持って、乳首を含ませてくれたからだ。

乳首を吸引して、しばらく揉んで弄んだ。舌を使って、乳首も乳輪も丹念に舐めた。

「ん、…ああ、だめよ、君。そんなに舌を使ったら、ママ感じちゃうわぁ」

「なにいつてんだよ、ママ。もうこんなに乳首が固くなってるのに。もっと一杯、舐めてあげるよ」

「あつ、はっ…、そんなにしたら、ママ頭がおかしくなっちゃう。行けない子ね、ほ、本当にイ」

乳房を両手で無茶苦茶に揉んだ。強い力で乳首を吸い、固く上がった乳頭を歯と舌先で擦りあげた。

それだけで、かるい痙攣が走るほど奥さんは感じてしまった。

思わず手を奥さんの股間へ、ショーツの中にも入れてしまった。興奮されると、こちらでも我慢ができなくなってくる。

自分はそれほどテクニシャンではない。たぶん十人並みだろう。だが、それでも奥さんたちがメロメロになるのは、催眠かのセックスで身体が異様に敏感になってしまっただ。

胸を弄んだだけでイッてしまう奥さんも少なくない。イッたふりをするのが仕事のような風俗嬢でも、ここまで敏感な演技はできやしない。

潮をふいたように、淫汁がとめどなく溢れ出していた。

本当に達しているのだから。

そのせいも、カウンセリングが終わり、悩みが解消された後でもズルズルと肉体関係が続いてしまう場合が多い。

催眠状態でのセックスはとても敏感に感じてしまうものらしく、普段では得られない快感の虜になってしまうのだ。

だからあまり長くその関係を続けていけはいけない。

頃合いを見計らって、もとの生活に戻るようにしむけて行く。

でないとその淫な関係がご亭主にバレてしまうかも知れないからだ。



「だって、ほら僕、こんなになってるよ。ママのお口でしゃぶられたいって、こんなに固くなってるんだ」

そういって、ペニスを目の前に突きつける。擬似的な母親となっただけに、食らいついてくるような激しさはなく、むしろ慈しむような感じで口に含んでいってくれた。

じっくり味わってしゃぶっている。そんな感じだった。激しくしゃぶられるよりも、むしろ丁寧にフェラされほうが気持ち良い。

そのせいもあって、どの治療でもたいていはフェラチオはさせるようにしていた。



「ママ、だめだママ。それ以上舐められたら、僕、出しちゃうよ。それよりもママのオマ コ見せてよ。見たんだ」

「わかったわ。ママのオマ コ見せてあげる。ホラよく見て、ここから 君が出てきたのよ」

そう言って、自分から裸になってベッドで足を大きく広げる。マ コの中が丸見えになるように、指で広げて見せてくれた。

濡れ濡れなんてものじゃない。まるで涎のように、大量に淫液が溢れ出していた。

「ママ、もうこんなになっているのよ。ママだって、すごく感じているの」

声の調子も、禁断の興奮に昇りつめようとしている。

そのマ コに顔を近付けて、見るだけでは飽きたらず指で触れ、舌で舐めた。

こちらにも興奮で、つい羽目はずした。むしろ本番になると、思うままに入れてしまうことが多かった。

擬似近親相姦で異様に興奮しているのはこちらも同じ。

本当に奥さんの息子になったような気分で接してしまう。奥さんの妄想の人物になり切ることで、自分も母子相姦にどっぷり浸れてしまうのだった。

「あつ、あーっ。イイっ。ママのオマ コ、もっと弄つてエ。指を、もっと奥まで入れてエエ。もう、イッ、いっやうわア。ママ、君に、い、イカされているのよう〜。イイーっ！」

奥さんは本気イキで、何度も立て続けに昇りつめた。

自ら敏感な弱点をさらけ出すように、どこが感じるのか、自ら指で弄り教えてくれさえしている。

さらには今まで隠していた本音を吐き出すたびに、ますます淫らになっていくようだ。

「君のオチンチンも、この穴に入れていいのよ。ママのオマ コの中に、白いオシッコ一杯だして。君もママと一緒に気持良くなるのよッ！」

待ちかねたように、求めてくる。レイプ願望を持っている奥さんには、前戯もなしに挿入することがある。

そういうセックスを求めているだけに、それだけで達してしまう人もいるほどだった。

「あ、ああ、イイ〜。ふう。感じる。感じるのよ。君のオチンチンが中に入ってくるのを、感じるわア。か、感じるよーっ、し、子宮がしびれるう〜っ！」



まるで癲癇発作のような激しい乱れようだった。涎を流し、泣きべそをかきながら声にならないヨガリ声をだしながらイキまくっている。

まるでオーガズムの荒らしに翻弄されているようだ。ここまでくれば、言葉で誘導してやる必要はなくなっている。後は、自らの妄想が勝手に動き出し快感を運んでいく。

あおられて、頭が沸騰しそうな程興奮した。後背位や横抱きに、思いつくかぎりの体位で思いきりペニスを突き入れた。

射精の瞬間は、奥さんが失神してしまった後で、中で出した。

この時、本当に子供になったような気分がした。この快楽を手放すのは、とてもできないと感嘆しながら。

この後は、最初の激しさこそなくなっていったが、ドロドロの淫乱な関係が続くことになった。

そしてそろそろ次の段階へ、普通のセックスができるようにしむけて行かなくてはならない。

おかげで十分楽しませてもらったし、次の依頼がやってきたからだ。

自分はこの治療に、ますます深みにはまっているのかもしれない。だが、いまさら後戻りもできなかった。

続きは製品版でどうぞ。